

# 須佐 J A P A N 方針

世界と戦うために、新たな JAPAN WAY を構築する . . .

ロサンゼルスオリンピック

目標：金メダル 2 個以上、男子 3 人・女子 3 人出場

## 組織体制の方針について

### 1 役割と責任の所在を明確にする

→ 各人の得意分野を活かし、適材適所の任務・役割・連絡系統を明確化するとともに、組織の活性化を図る。

### 2 選手との対話を創造するため、若手コーチを積極的に登用する

→ 選手と同じ目線で対話ができる若手コーチを登用し、選手とのコミュニケーションを密に図り、選手の置かれた状況や、体調を把握する。  
また、ベテランコーチから助言してもらい、次世代を担う若手コーチの育成を図る。

### 3 少数精鋭の指導により、ターゲットアスリートを選出する

→ 今後は、ロス五輪まで男女のコーチを統一し予算の効率化を図るとともに、ターゲットアスリートを選出する。合宿及び地方国際大会等にも積極的に参加させ、経験値を向上させる。

## 技術指導の方針について

### 1 1 ラウンド目を確実に獲得できるボクシングスタイルの確立

→ 現在のジャッジシステムは 1 ラウンドを取られると 2、3 ラウンドで挽回が難しい。よって、選手・セカンド双方が 1 ラウンドを重要視する共通認識をつくる。  
1 ラウンドを獲得するためには、その 3 分間の戦い方にストーリーを持たせて、審判にポイントをアピールできるようしなくてはならない。  
遠距離からの早い出入りや、ジャブボディーから組み立てを実施して主導権を獲得、相手のパンチを被弾せずに自分だけ相手にパンチを当てるボクシング(ヒットアンドアウェイ)を追求する。

### 2 打つことのみを重きをおかない、フェイントを交えた多彩なボクシングの確立

→ 日本人選手はステップやフェイントなどの工夫が乏しい。そのため、前述の被弾せずに打つ、ということが達成しづらい。  
打たせずに打つために、打つ時間及び打たせない時間(打ち合えば打ち合うほどジャッジの判定が割れやすい)を長く作り、より多くのフェイントを習得、活用し、自分だけがパンチを当てる時間を作る。

### 3 審判部と連携した、判定基準を理解したボクシングの確立

→ 審判部と連携し、各選手が確実にポイントの取れるボクシングを作り上げる。そのために、得点になるパンチとそうでないパンチを学ぶ機会を作り、国際試合に自信を持って出場できるようにする。